

熊谷のシルクロード

平成二十六年六月二十五日、第三十八回ユネスコ世界遺産委員会にて「富岡製糸場と絹産業遺産群」を世界文化遺産に登録すること決定された。明治五十年に創業した官営富岡製糸場は、民営化後、昭和十四年に現在の片倉工業株式会社と併合。その後、昭和六十二年に操業を休止し、平成十七年に同社から富岡製糸場に寄贈された。かつての熊谷も同社の製糸工場「旧片倉工場」が「富岡製糸場」であった。その他、蚕業試験場、繭検定所など、養蚕関連の工場や関係機関が所在し、養蚕の街としても栄えた。世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」と共に、熊谷のシルクロードは語り継がれている。



国輝「上州富岡製糸場之図」

「富岡製糸場と絹産業遺産群」は、世界経済の貿易を通じた一体化が進んだ十九世紀後半から二十世紀にかけて、高品質な生糸の大量生産の実現に貢献した技術交流と技術革新を示す集合体として、世界の絹産業の発展と絹消費の大衆化をもたらした。文化庁によると、「富岡製糸場」の技術革新は、製糸技術の革新と、原料となる良質な繭の増産を支えた養蚕技術の革新の双方が相まって成し遂げられた」と評価されている。富岡製糸場（富岡市）・田島弥平旧宅（伊勢崎市）・高山社跡（藤岡市）・荒船風穴（下仁田町）によって構成されている。

富岡製糸場（史跡、国宝）

明治五年（一八七二年）に明治政府が設立した官営の機械製糸場。和洋技術を混交して建てられた木骨レンガ造の繭倉庫や繰糸場などがほぼ完全なこのころ。民営化後も一貫して製糸を行い、製糸技術開発の最先端として国内養蚕・製糸業を世界一の水準に牽引した。



富岡製糸場

旧片倉工業熊谷工場の歴史

明治四十年に信州片倉組が三木原製糸場を買収し、片倉組石原製糸所として操業を開始したのが嚆矢である。特に貯繭倉庫が記念館として良好に保存されており、日清・日露戦争後に「製糸の町」と言われた熊谷を象徴する建物であり、熊谷の歴史を考える上でも貴重である。

明治四十年、片倉組石原製糸所（〇イⅡ「マルイ」）の生産が開始。大正九年三月に、片倉の製糸場は、片倉組を継承し、片倉製糸紡績株式会社を設立した後、株式会社組織になった。同年、熊谷尾沢組製糸所を合併して熊谷製糸所（〇イⅡ「カクイ」）として熊谷の地に二つの製糸工場を有した。

第一次世界大戦の戦災により、製糸・機械業の先進国であったヨーロッパでの製糸産業が衰退。世界は日本に大量の高級生糸を求めようになった。その需要を担った一つが熊谷で製造された生糸だった。

戦前、熊谷製糸場は、熊谷電気製作所として軍需工場へと転換される。そして、終戦前夜の熊谷空襲で熊谷は多くの災害を被ったが、石原製糸所は奇跡的に被災からは免れた。戦後、化学繊維の開発、生活様式の変化によって、絹製品の需要が減少。平成四年六月、石原製糸場は、片倉最後の製糸工場として生糸製造業務を休止した。その後も販売など

深谷の三偉人と

富岡製糸場

富岡製糸場には深谷出身の三人の人物が深く関わっている。洪沢栄一は明治政府の官営を前提とした製糸場設置を推進し、尾高惇忠は富岡にフランス式の機械製糸場を竣工して初代場長を務めた。荏塚直次郎は富岡製糸場の巨大建

築建設を支える煉瓦職人を束ねた。また、尾高惇忠の長女ゆきは富岡製糸場の

労。最新鋭の機械式糸繰りをフランス人から習得する伝習工女の先駆けとなったことで知られている。



片倉シルク記念館



蚕室

の業務は継続したが、平成六年十二月に全ての業務を終え、その長い歴史の幕を下ろした。第二号、第四号倉庫のみが保存され、片倉シルク記念館として再出発した。第二号倉庫は倉庫内部の繭を貯蔵する縦穴が、蜂の巣に幾つも並んで

いることから通称「蜂の巣倉庫」と呼ばれる。この倉庫は、昭和十一年に福島県で建設され、元郡山製糸場にて使用されていた建物を、昭和に

第四号倉庫は通称「繭倉」と呼ばれ、熊谷工場の前身である三木原製糸場の当時から残る土壁の蔵作りの倉庫である。現在では、操業当時に使われていた製糸機械や貴重な資料が展示され、繭から生糸になるまでの製造工程を学ぶことができる。

片倉シルク記念館 概要

所在地 熊谷市本石丁目一三五番地（イオン熊谷店敷地内）
開館時間 十時～十七時
休館日 月曜及び火曜（年末年始、夏季お盆期間その他臨時休業有）
入館料 無料
問合せ 〇四五五三三四三二六

文化財で街おこし

養蚕と熊谷シルクの歴史

伊勢崎の田島弥平と共に、日本を代表する養蚕技術の先駆者となった鯨井勘衛くじらいかんえは、天保二年（一八三二）旧玉井村で生まれ、玉井に「元素楼」という大蚕場を作り、清涼飼育という画期的な養蚕技術を多くの人々に伝習した。勘衛によって成し得た養蚕技術の向上が、関東地域での繭生産の増大をもたらした。製糸業への供給を確固として下支えた。

その後、「元素楼」は移築解体されその跡地が市指定史跡に指定されている。また、勘衛による「一括」は、養蚕技術の歴史を示す貴重な文化財資料である。



市指定史跡「元素楼跡」



NPO法人くまがや小麦の会による「熊谷の力」熊谷市の県立高校8校全校参加でスイーツ文化祭が昨年11月2日(日)八木橋デパートで開催されました

えびす祭り商業祭で十七号を歩行者天国にして「オドレ直実」のストリートパフォーマンスが繰り広げられる。八木橋さんの東口はスタート地点に当たる。熊谷市の県立高校八校が八木橋開店前より、自校の幟旗、ブラスバンド、製品の陳列籠等趣向を凝らして、販売準備がなされていた。十時の開店と同時に来店客はお目当てのブラスバンドの演奏、学校の授業、クラブ活動、作り上げたオリジナル製品を自校の旗を背負って販売した。各校の宣伝、新聞の事前記事、八木橋さんの新聞折込み広告、タウンタウン小麦スイーツ文化祭特集を熊谷市報へ折込熊谷市内全戸に配布、小麦の会会員への郵送と集客活動を行った。当日は高校生のパワー炸裂、大盛り上がりとなった。

長蛇の列に「最後尾」のプラカードまで登場した。熊谷市の県立高校八校全校参加がスイーツ文化祭を輝かせた。常時、八木橋B1食品セルフレで購入できる。八木橋さんに御同意を頂き、引き続き今年も同時期に実施予定。熊谷産小麦を使用し、たオリジナル製品を媒介として、母校の後輩との交流もあつた。各校オリジナル製品を文化祭、OG、OBの記念のシーンにご活用下さい。御買上げの10%は母校へご購入者のお名前を寄付させていただきます。

製品お申し込みは各校窓口又は小麦の会事務局
TEL:〇四八五二二七八〇
FAX:〇四八五二二七九〇〇
へお問い合わせください。



吉田・櫻井税理士法人
税理士 吉田嘉高
税理士 吉田貴之 税理士 櫻井富美子
〒360-0014 熊谷市箱田2-2-8
TEL:048-521-0334 FAX:048-521-4506

立正幼稚園
http://www.rissho.ed.jp/
〒360-0813 埼玉県熊谷市陽光1-17-13
TEL:048-536-1688 FAX:048-536-2168

ゆうえん
亡き人に心をこめて JAくまがや協賛
〒360-0813 埼玉県熊谷市陽光1-17-13
TEL:048-525-5444 FAX:048-525-5446

近江屋酒店
熊谷の風土と歴史の香りをお届けします
http://www.oimiyasaketen.com/
TEL:048-521-1009 FAX:048-521-3198

くましん
熊谷商工信用組合
〒360-0042 熊谷市本町2丁目57番地
TEL:(048)522-4381(代) FAX:(048)522-4383

株式会社 平松
代表取締役 日向研一朗
〒360-0801 埼玉県熊谷市中奈良1797-1
TEL:048-521-0026

くぼじまクリニック
KUBOJIMA CLINIC
〒360-0831 熊谷市久保島 1785-2
TEL:048-533-7511 (代) FAX:048-533-4606

丸登製絲株式会社
前橋市国領町2丁目200番6
〒360-0831 熊谷市久保島 1785-2
TEL:048-533-7511 (代) FAX:048-533-4606